

第 58 回全国学童保育研究集会（20231104~20231105）レポート

【クラブ】（ なかよしクラブ ）

【名 前】（ 吉川 美里 ）

① 2 日目に参加した分科会のタイトルをお書きください。

（ どの子ども受けとめる学童保育をめざして ）

② 2 日間の全体会と分科会で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

初めのオープニングでの来年度の岡山の子どもたちや 色々な地域の学童保育所の子どもたちの生き生きとした姿がとても印象的でした。地域の伝統的な文化や踊り、遊びを大切に受け継ぎ、全員で楽しく共有できることは素晴らしいと思いました。中でも大阪の学童保育所の、通常の放課後の姿、普段遊んでいる様子をたくさんの写真で見られたことがとても参考になりました。そして、周りに家など何もなく、部屋の中でフラフープをやっているような広々とした施設を建ててもらえる学童は理想でした。

全体会の記念講演は毎年楽しみにしていますが、講師が東京大学大学院、京都教育大学准教授という経歴から少々緊張してかまえていました。しかし、講師自身が学童中退者という言葉から始まり、それでも“学童は楽しかった印象が強く残っている”という貴重な話でした。

肢体不自由の子どもが先生と一緒に登った滑り台の話。その時の空の色まで覚えていたほどのたった 1 回の経験が、その子にとって一番の思い出という話もありました。私自身かつて幼稚園教諭だった頃、肢体不自由の子どもを受け持っていた時の経験を思い出しました。その先生と同じ考えから、最大限寄り添えるようにと、くろこの限界まで挑戦した劇あそびの会。卒園後に「劇あそびの会が忘れられない！ほんとに楽しかったよ！」と、とびっきりの笑顔で言ってくれたことがありました。今も昔も変わらず…子ども一人一人の気持ちを考えて、今何が出来るか丁寧に寄り添っていこうと思いました。他にも、たった 1 回経験したことが、その子どもにとって本当に豊かな生活の経験となっていることが感じられる 1 年生の子の作文がありました。“いつの間にかそうであるような学童生活”が送れるようにしていきたいと思いました。

その経験自体が後々に何をもちたらずとかそれをやったおかげで後々あれが出来るようになった、こういう人間になったという考え方に偏ることなく、その時期がそれで充実していたということが大切。（有名な著書の言葉を要約すると）これを聞いた時、まさしくこれこそ自分の心のベースにあることと同じだと嬉しく思いました。大人からしてみれば、つい何かの役に立つから等と思いがちですが、子どもにとっては小さな経験一つ一つが大切な宝物です。これからも子どもたちが充実した学童生活を送れるように考えていきたいです。